

第3章

should と shall

法助動詞の should もまた、よく登場する助動詞です。意味は大ざっぱに言って2つあります。

一つは「～すべきだ・～した方がよい」という意味で、これは相手に対して好意的に助言をしたり、自分がすべき望ましい行為について述べるときに使います。

もう一つは「おそらく～するだろう・おそらく～であるだろう」という意味で、話し手の期待に沿う状況・事態が生じる可能性について述べるときに使います。

一つ目の意味は必ず中学で習う項目ですが、二つ目の意味は知らなかった人もいるかもしれませんね。

3-1 好意的助言を表す should

1 現在～未来の文脈での should

まず、また問題からやってみましょう。あなたの友人が最近だ
いぶ太ってきました。そこであなたはその友人に助言します。

【問題1】 次のそれぞれのカッコ内で適切な語を選びなさい。

You (should / had better) lose (your / some) weight.

「ダイエットした方がいいよ」と友人に言う場面です。正しい答
えは以下の通りです。

(◎) You should lose some weight.

you should は「好意的な助言」ですから、この場面で安心して使
えます。一方 had better は（特に主語が you のときには）注意し
なければなりません。You'd better ... は英米の家庭で、幼児に向
かって「あれしちやダメ、これしちやダメ、それしなくちやダメ」
と言うときの常套句です。

- You'd better eat the carrots and green peppers on the plate.
「お皿の上のニンジンとピーマンをちゃんと食べなさい。（食べない
と栄養失調になるわよ）」
- You'd better be home by five.
「5時には家に帰っていなさいよ。（遅くまで外でふらついていると
怖い目にあうよ）」

『ジーニアス英和大辞典』の had better の項にも以下の記述があ
ります。

had better: 主語が二人称の場合、文脈・音調によっては警告・
脅し・押しつけがましさを意を含むことがあるので通例目下の
人に対して用いる。

つまり、「～しなさいよ、さもないとこんなにひどい目にあうよ」
という、上から目線の脅迫的な響きがあるので、友人など対等の人
に向かっては使えない、ということですね。

some weight と your weight の方はどうでしょうか。

もし your weight と言うと「あなたの全体重」という意味です
から、lose your weight は「全体重を取り去る」、つまり体重が0kg
になる、という意味になってしまいます。それでは死んでしまいま
すね！

2 助言の響きをさらに和らげるには...

相手に助言をするというのは難しいことです。信頼関係がないと
助言を素直に受け取ってもらえません。しかも、英米人の場合、自
立心というか自己決定権というか、「自分のことは自分で決める。
その権限はだれにも渡さない」みたいな気持ちが強いですから、他
人から自分のことについてあれこれ言われるのはもともと好みませ
ん。イギリスが EU から脱退した理由の一つに、移民政策などを自
国で決められないという不満があったと言われていました。アメリカ
では、銃の乱射事件がいくら起こっても銃所持に賛成する人が多く
いる背景には、自分のことは自分で決める（自分で守る）、他人か
らの口出しは無用、という意識があると言われていました。

ですから、You should lose some weight. という表現でも、そ
れを聞いたときに、まだ押しつけがましさを感じる英米人もいるか

かもしれません。そのときにはどうしたらいいでしょうか。

以下のように言います。

- **Maybe you should lose some weight.**
- **I think you should lose some weight.**

これらのことばを最初に言うだけで、だいぶ響きが柔らかくなります。

3 主語が I, we, you でないときの should

should は望ましい状況 (～するべき・～であるべきだ) を述べるときに使うので、文の主語は I, We, You でなくても、何でもかまいません。

- **Should gun safety be taught in public high schools?**
「公立の学校で拳銃の安全性について教えるべきだろうか」

ここで言う **gun safety** 「拳銃の安全性」というのは、ぶっちゃけ言ってしまうと **how to handle guns safely** 「拳銃の安全な使い方」という意味で、婉曲表現です。「学校で児童・生徒に拳銃の撃ち方を実際に教えるべきではないのか？」と問うているのです。これは米国では日常的な議論になっています。すごいことですね。悪い自国政府に対しては人民の武装反撃の権利が保証されている国ですから。

米国では事実上ほとんど誰でも拳銃を購入でき、各家庭に拳銃があったりするので、子供や幼児が遊んでいて間違っただけで拳銃をぶっ放して大事故になる事件が絶えません。それなら学校で銃の正しい撃ち方と管理の仕方をしっかり教えた方がよいという主張です。

4 確信のなさを表す should

should が「～するべきだ」のような意味にならないときもあります。以下のようなときです。

- **Judging from the look of the sky, I should think it's going to rain soon.**
「雨がじきに降り出すんじゃないかと思うんですが...」(英国)

should が直後に「思考系の動詞」を伴うとき (つまり、think, say, imagine, hope, like, prefer などですが)、この should は「確信は持てないが多分～だろう」という意味を付け加えます。ただしこれはイギリス英語です。アメリカ人は should の代わりに would を使います。(☞ p.168)

- **Judging from the look of the sky, I would think it's going to rain soon.**
「雨がじきに降り出すんじゃないかと思うんですが...」(米国)

これに関連して、I should think の用法で、英米で (特に英国で) よく使われていながら、日本の英語の参考書にはほとんど載っていないものがあり、それを次に取り上げましょう。

5 相手がやっていることに賛同の意を表す I should think so (, too)

それは、相手がやっていることに賛同の意を表す **I should think so (, too)** です。この用法の例文が載っている辞書 (*Cambridge Advanced Learner's Dictionary & Thesaurus*) もありますので、まずそれを見てみましょう。